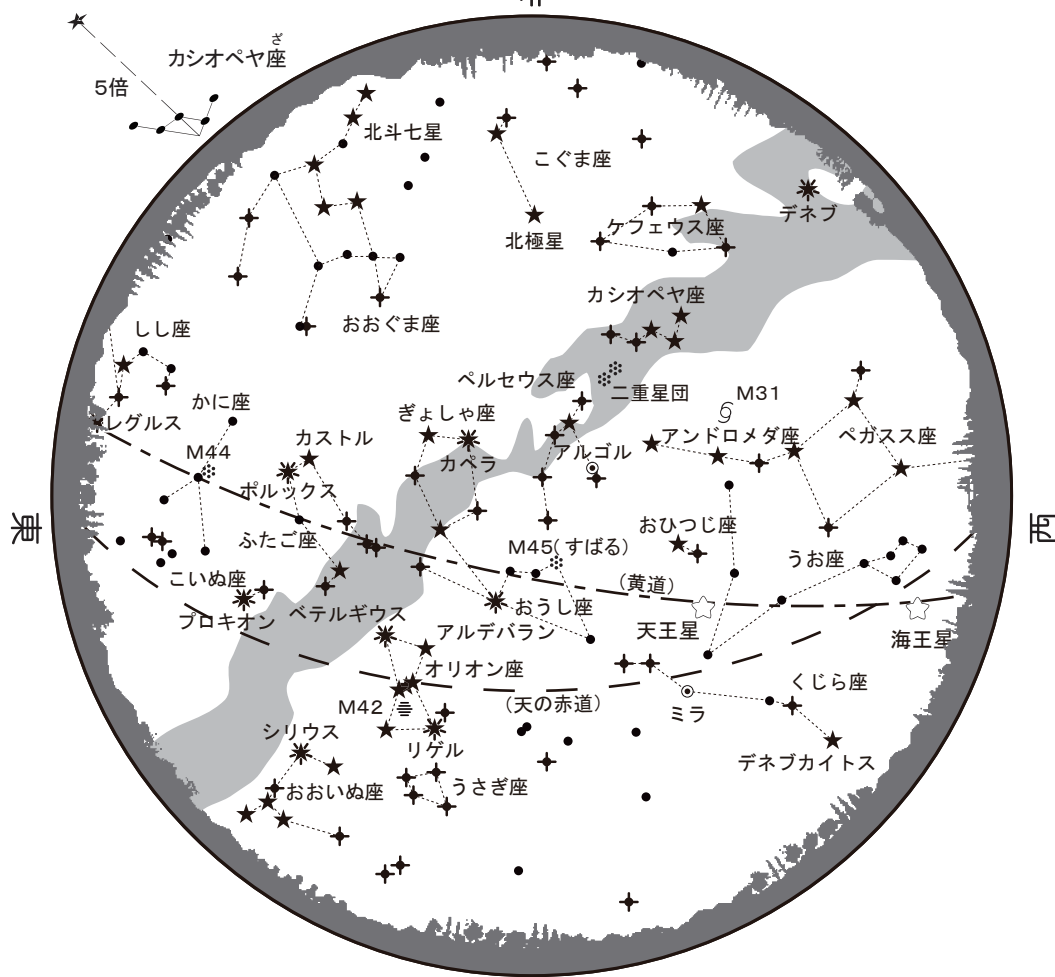


富山でみえる 2020年1月の星空

自分の見たい方角を下にして、その方角の空を見よう。

ほっきょくせい
北極星の見つけ方



- ※ 1等星と、より明るい星
- ★ 2等星
- ✦ 3等星
- 4等星と、より暗い星
- ◎ 変光星
- ※ 星団
- ≡ 星雲
- 9 銀河

この星空が見えるのは

1月 5日 午後9時ころ
1月 20日 午後8時ころ
2月 5日 午後7時ころ

～月のようす～

1月 3日上弦 ①
1月 11日満月 ②
1月 17日下弦 ③
1月 25日新月 ④

カシオペア座



北極星を見つけるための星座としてよく知られています。Wの形とされていますが、今の時期はひっくり返ってMの形に見えます。日本では、船のいかりや山の形に似ているので「いかり星」とか「山がた星」と呼ばれました。

ぎょしゃ座



ぎょしゃとは馬車の運転手のことです。黄色のO等星カペラが目印で、このカペラをふくむ、少しつぶれた五角形の形に星をつなぎます。カペラには「小さなメス山羊」という意味があり、星座絵でも山羊をかかえた男の人が描かれています。

おうし座



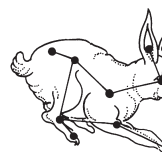
赤い1等星アルデバランが目印です。星座絵ではこの星がおうしの目になっています。この星座には、有名な「すばる」があります。平安時代に清少納言が『枕草子』の中で「星はすばる…」と、その美しさをたたえています。

オリオン座



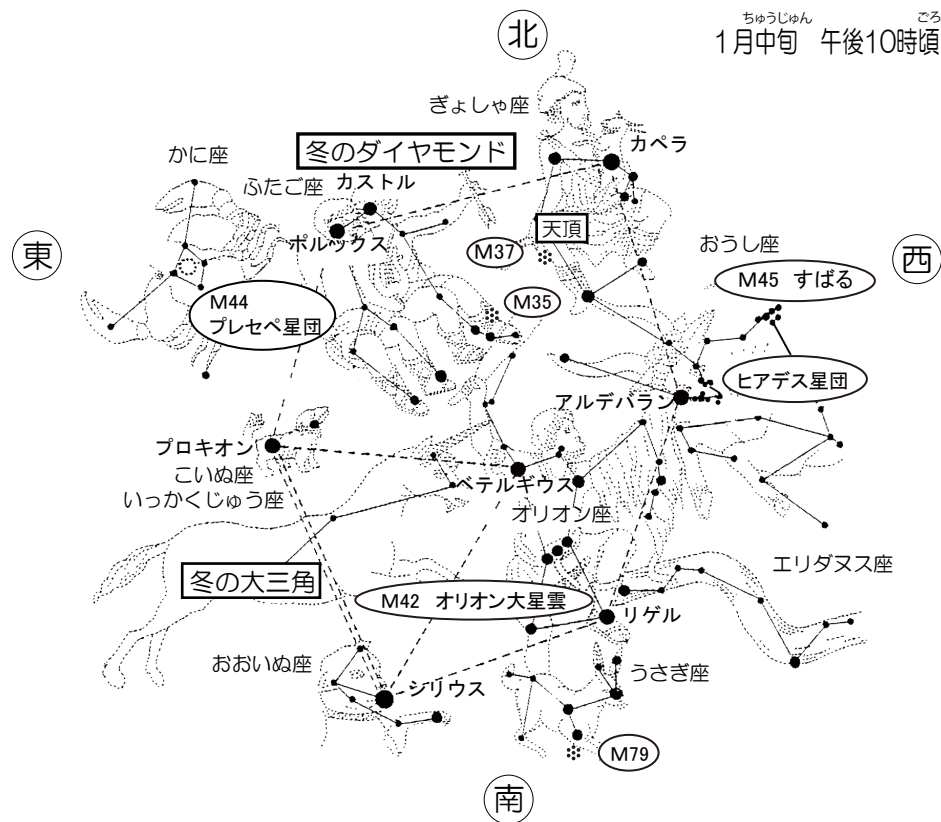
砂時計のような形をした星の並びがオリオン座です。上側の赤くて明るい星はベテルギウス、下側のやや青みがかった明るい星はリゲルで、ともに1等星よりも明るい星です。またこの星座には、オリオン大星雲（M42）と呼ばれる明るい星雲があります。

うさぎ座



オリオンの足元にあり、オリオンに踏みつぶされそうになっている星座です。うまく星をつなぐと、長い耳やしっぽ、前足などをたどることができます。顔のあたりには、暗いけれどとても赤い色をした「クリムゾン・スター」と呼ばれる星があります。

冬の星座の見つけかた



- 1 砂時計のような形のオリオン座を見つけます。
- 2 オリオン座の真ん中の3つ並んだ星（三つ星）を右上にのばして、おうし座のアルデバランを見つけます。
- 3 アルデバランの北に、カペラをふくみ五角形をしたぎょしゃ座を見つけます。
- 4 オリオン座の三つ星を左下にのばして、冬の星座で一番明るくかがやくシリウスを見つけます。オリオン座のベテルギウス、おおいて座のシリウス、こいぬ座のプロキオンで作る「冬の大きな三角」を見つけます。
- 5 ぎょしゃ座の東に、明るい星が2つ並んだふたご座を見つけます。
- 6 1等星以上の明るさのシリウス、プロキオン、ポルクス、カペラ、アルデバラン、リゲルをつないでできる大きな六角形が「冬のダイヤモンド」です。

○楽しもう！星雲・星団！

カラーで見たい方はこちらから



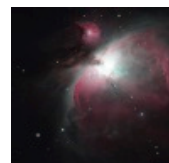
冬の星空で楽しむことができる星雲・星団を紹介します。肉眼・双眼鏡・望遠鏡で、観察できます。左の星図で位置を確認して見ましょう。



M45 すばる（プレアデス星団）



おうし座の肩あたりにある散開星団。誕生してから数千万年とされる青白い高温の星の集団です。（地球からの距離：約410光年）



M42 オリオン大星雲



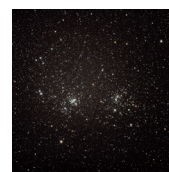
オリオン座の三つ星の近くにある星雲。活発に星が生まれており、望遠鏡で見ると「トラペジウム」と呼ばれる生まれたばかりの四重星が見えます。（約1,400光年）



ヒアデス星団



おうし座アルデバランの近くに広がるV字形の星の集団。日本ではその形状から釣鐘星と呼ばれていました。（約160光年）



二重星団（h-x / エイチ-カイ）



ペルセウス座にある散開星団。低倍率の望遠鏡を使うと、白い星や黄色い星がたくさん集まった、二つの星の集団が楽しめます。（約7,170光年・約7,500光年）



M44 プレセペ星団



かに座の所でぼんやりと見える散開星団。紀元前から知られていましたが、ガリレオ・ガリレイが自作望遠鏡で初めて星の集団であることを発見しました。（約590光年）



M31 アンドロメダ大銀河



私たちが住む銀河系のおとなりの大きな銀河。アンドロメダ座にあり、空が暗いところでは、肉眼でもぼんやりと見えます。肉眼で見える最も遠い天体です。（約230万光年）

この他にも、ふたご座「M35」（散開星団）、ぎょしゃ座「M37」（散開星団）、うさぎ座「M79」（球状星団）など、興味深い天体があります。